第 35 号
令和６年３月１日発行

発 行 者
歴史の道 土木遺産萬世大路保存会
会 長 梅 津 幸 保

事 務 局
万世コミュニティセンター
☎0238-28-5381

題字は村山道雄元山形県知事

萬世大路福島側関係団体との交流会報告

令和５年８月27日(日)に第５回目となる萬世大路交流会を行う事が出来ました。思えば、平成30年８月24日に福島市を会場に江戸時代の街道と萬世大路への変遷についての学習と、福島市内の街道の様子と福島河岸などの視察が第１回萬世大路交流会の始まりでした。

翌、令和元年８月24日（令和は５月１日から。）に第２回を米沢側の萬世大路と関係史跡を巡って、米沢駅前で情報交換と懇親会を行いました。第３回は庭坂の三島福島県令官宅周辺の史跡を視察し、湯町をつくり上げた構想に驚きました。第４回は米沢会場で準備していましたが、新型コロナの爆発的な感染拡大により中止となってしまいました。

去年は新型コロナも２類から５類となり、マスク着用も個人の判断になったことから、第５回萬世大路交流会の米沢開催の準備に入りました。福島市吾妻地区郷土史談会からは、新型コロナの影響は少なくなったものの萬世大路の散策を控える他に短時間での会合として懇親会は控えましょうとの提案がありました。当日は、米沢市議会議員にもご案内したところ、２名の方に参加して頂きました。

昼食会後には、万世大路研究会の阿部公一代表から本人が自費刊行した「会津三方道路」冊子を当保存会へ寄贈がありました。原稿作製に当って奥様と現地踏査した際に、大峠福島側でやぶに入り、一歩も進めなくなったエピソード紹介がありました。

その後に、当会の金子氏より明治期の山形県内土木工事に大きく寄与された高木秀明（たかぎ ひであきら）の経歴と、統一山形県出仕の明治９年９月から刈安新道のルート決定までの同年12月御用納めまでの公務日記及び関連資料を紹介説明しました。高木秀明氏は後に福島県の第二土木課長に赴任しているので、そこでの活躍の軌跡を福島側の皆さんに調べていただくことにしました。

福島県側の話題は「福島の石橋群」（６橋）土木遺産認定記念シンポジウムが令和５年11月18日～19日に行われるとの情報がありました。

（４ページ参照）

（仮称）山形の応用地質100景への推薦について

昨年来お付き合いをいただいている「山形応用地質研究会」から、会員になっていただけないかということで、保存会梅津会長名で会員登録をしたところ、その場で早速に研究会では（仮称）山形の応用地質１００景の製作に取り組んでいるので、保存会から提案していただければ嬉しいとの案内がありました。

せっかくなので、研究会からまとめて頂いた栗子の地質と三島通庸の広報を兼ねて整理し、11月25日の研究会懇話会で代理発表をお願いしたところです。